令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　京都府　】

学校名【　京都府立久御山高等学校　】

１ 実践テーマ	【Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ】
２ 実施対象者	スポーツ総合専攻１・２・３年生
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（保健体育） ② 行事名（支援学校との交流事業・オリパラ講演会） （２）地域における活動 ① イベント名（東角小学校運動会）
４ 目　標 （ねらい）	支援学校中学部の生徒と交流することで、障害者への理解、共生社会の形成への学びを深めるとともに、スポーツを「支える」価値や意義を考え、スポーツ交流を通じた人間的成長を図る。 また、パラリンピアンの講演から、自己の取り組みを見つめ直し、更なる向上への意欲を高める。
５ 取組内容	（１）久御山町立東角小学校運動会ボランティア活動 ① 日時　令和３年９月 ② 場所　久御山町立東角小学校グラウンド ③ 内容　東角小学校運動会の競技補助・準備手伝い （２）京都府立宇治支援学校との交流事業 ①日時　令和３年10月27日（水） 令和３年12月10日（金） ②場所　京都府立宇治支援学校 ③内容　京都府立宇治支援学校中学部の生徒に対して、剣道を通じた交流から障害者理解を深めるとともに、指導案を作成しながら交流内容を考えることでスポーツを支える価値や意義を理解する。 （３）パラリンピック選手による講演会 ①日時　令和３年11月24日（水） ②場所　京都府立久御山高等学校体育館 ④講師　山﨑晃裕選手（順天堂大学） 東京パラリンピック陸上競技やり投げ

６ 主な成果	（１）久御山町立東角小学校運動会ボランティア活動 　計画では、本校サッカー部員が久御山町立東角小学校の運動会に参加し、競技の補助・準備片付けの手伝い・サッカーパフォーマンスを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で実施できなかった。 （２）京都府立宇治支援学校との交流事業 ①第１回交流　令和３年10月27日（水） 　宇治支援学校中学部２年生の生徒を運動能力別に８つのグループに分かれてもらい、グループごとに交流を実施した。内容は、宇治支援学校から「剣道」を体験したいと要望があったため、「剣道」を通じた交流とし、各グループごとに指導案を作成し、模擬授業を重ねて第１回目の交流に臨んだ。本校、スポーツ総合専攻の生徒は３年間通じて剣道の授業を履修しているため、剣道部以外の生徒も剣道の基本は学んでおり、構えや足捌き、基本的な素振りは見本として示す程度の技術は習得している。そのため、剣道部を中心としたものではあるものの、全員で積極的に技術指導に携わりながら交流ができた。 　第１回目は剣道の構え、足捌き、素振り等の基本的な動作を伝えることを中心とし、第２回の交流に向けてグループごとに課題を設定し、取り組んでもらった。 【構え方】 【足捌き】

【素振り】

（３）京都府立宇治支援学校との交流事業

①第２回交流　令和３年１２月１０日（金）

第２回交流は、前回提示した課題を確認することから始まった。課題確認後は新聞紙や紙風船を使用し、ゲーム的な要素を取り入れながら実践的な内容へと展開した。剣道部員が防具を装着し、打突部位に紙風船を付け、その風船を打突で割る等楽しみながら剣道交流ができ、充実した時間となった。

【実際に打ってみる】

【新聞紙切り】

【紙風船を狙う】

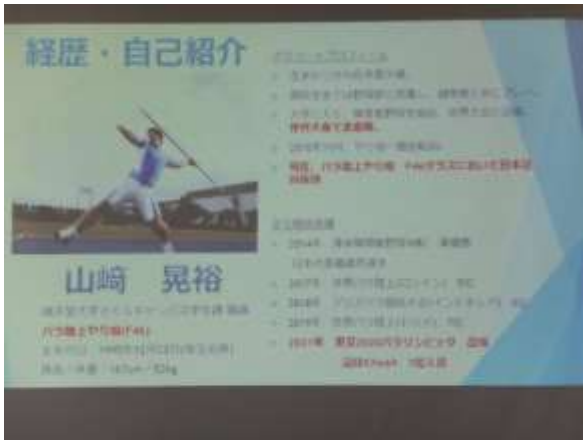
（3）パラリンピック選手による講演会

講師に、東京パラリンピック陸上競技やり投げ 7 位に入賞された、順天堂大学の山﨑晃裕選手にお越しいただいた。東京パラリンピックのお話はもちろんのこと、何事にも前向きに挑戦することの大切さ生徒に伝えていただいた。

（生徒の感想より）

山﨑選手が結果を出している前提として、前向きな考え方があり自分は辛いときや負けたときにどうしてもマイナスになってしまい、前向きになろうとしてもなかなかできなくて、何度も悩んだ。結局答えは見つけられなかったけど、一つのことを一生懸命続ければ報われるという話を聞いて、自分は前向きになろうと考える一方で、試合の反省や次の試合への不安など色々なことを考えていたけど、次の試合に勝つことに一生懸命になれていればそれで良かったんだなと思った。また、「野球からやり投げに競技転向をして後悔したことはないですか」という質問をしたけど、「自分なら結果を出せると思っていたから後悔したことはない」という答えを聞いて、自分は剣道を離れることに心残りがあって、色々な人に残念と言われ、この選択でよかったのかと悩んでいたけど、今はしっかりと自分の夢を叶えて、今まで支えてくれた人に恩返しできるくらい頑張ろうと前向きな気持ちでいる。そのために、これからは先ず自分を信じてみようと思う。不調なときでも、必ずできるという前向きな気持ちで目の前のことに一生懸命になれるようにする。先に対する不安や後悔を今までたくさんしてきたけど、そんなことよりも目の前のことに一生懸命になれるような人間になりたいと山﨑選手の話を聞いて思いました。

「何事にも挑戦すること」という大切さを改めて実感できた。自分が高校 3 年間失敗ばかりして、インターハイも負けて心が下向きになっているのはまだまだ甘いなと思った。「失敗はいずれ成功に変わる」そうおっしゃっていたときに自分の中ですごく響くものがあった。一つ一つの言葉に重みを感じたし、一つ一つ前向きになれる言葉ばかりだった。「できないことは人以上に練習する」「最後まで自分を信じる」「努力するのは当たり前」「勇気を振り絞って挑戦する」ほんのごく一部の言葉も心に残った。これからも競技を続けていくなかで、「何事も挑戦」の心を忘れないようにして、大学

	１年生から試合に出られるようにもう一度基礎からやり直して実力を付けていきたいと思う。良い環境で陸上ができることに感謝をして、これからの４年間を大切にし、高校で果たせなかった日本一を目標に頑張っていきたい。  【プロフィール】 【講演の様子】
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	（１）宇治支援学校との交流では、運動能力の差が大きい中学生に対してどのような運動実践をしてもらうか、またはどのようなことなら楽しんでできるかということを考えた。剣道交流ということで、ただ剣道をするだけなら退屈になる。新聞紙や風船を使用して、ゲーム的な要素も取り入れて楽しく剣道が学べるようにした。グループごとに模擬授業を実践して確認と修正を繰り返し行った。
８ 主な課題等	（１）講演会の講師の決定が大変難しい
９ 来年度以降の実施予定	（１）現在検討中